いわてリハビリテーションセンターだより
●発行：２０２１年　４月８日
●編集：いわてリハビリテーションセン

ななつもり

第27巻 NO. 4

①②「諸橋機能回復療法部長から後進へのメッセージ」
③「コロナウイルス感染予防！お口の健康から」
④知っ得と便利「福祉用具をご紹介します！」

諸橋機能回復療法部長から後進へのメッセージ★

機能回復療法部で長年ご活躍された諸橋部長から、後進へのメッセージを八重樫副センター長兼地域支援部長との対談で伺いました。

八重樫：リハビリテーション関連職種として機能回復療法部で長年活躍していただいた諸橋さんから、今後のセンターの療法士としてあるべき姿や地域リハビリテーションにどのように関与するべきか、ぜひお伺いさせていただきたいです。

この度定年退職ということで、当センター設立当初から在籍した職員で初めての退職者となるので記念すべきことかと思います。

当センターは岩手県の中核施設として平成５年 10 月に開設、当時の様子や苦労した点等をお話しいただければと思います。

諸橋：まずは、当時の岩手県がリハビリテーションに関してもっと広く県民のために啓発しリハビリテーション医療を充実させなければいけないということでこの施設を建設したと聞き、ニーズや期待が相当大きかったと思われます。なので、我々が当初来た時はプレッシャーもありました。県民に何をしたら良いか、何を期待されているのかがまだよく分からなく、地域を回って調査したりするのに少し時間が掛かりました。当時、特に盛岡以外の地域ではマンパワーが足りなかったので、療法士のマンパワーに対するニーズが多かったかなと思います。

次に、センターの中は多職種がリハビリテーションを様々な所で学び、経験した人達が集まって来ていて、看護は県の医療局からの出向者が多く、それぞれが持っているリハビリテーションやチームアプローチに対する思いを擦り合わせ、センター独自のものに詰めるのが大変でした。ただ、色々な人の考え方を知ったりディスカッションしたり、お互いの職種の強みや弱みを理解し合い作り上げて来たので、今考えればすごく充実していて楽しかったなと思います。

八重樫：平成 12 年 4 月に介護保険制度が開始され、当センターでは回復期リハビリテーション病棟への変更を経て、その後、訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションも開始し、色々な機能が付加された上で気を付けていたこと等はありますか。

諸橋：介護保険の制度が出来る前はもっと我々が地域の保健師さん達や施設の方々と密にやりとりをしていた気がします。それが、介護保険制度が出来てケアマネさんが担ってくれるようになったら、病院のスタッフがケアマネさんに情報提供後そこから先、退院患者さんに関わる機会がすごく少なくなって、退院後の経過はケアマネさんを通じてしか得られなくなりました。今は通所や訪問で関わっている患者さんだと分かりますが、院内にいるスタッフは意外に退院された患者さんがその後どうなっているのか直接的なやりとりがなくなったので、以前よりはあまり知ることが出来なくなりました。

気を付けるというか、そういう部分をもっともっと院内にいるスタッフが自分から情報を求めていき、ケアマネさんにお任せではなく、自分達の立場で専門的な知識を持って関われることをもっと提供出来るような状況を作って行っても良いのかなと思います。

八重樫：療法士として地域連携を進めて行く上でどういうことが求められ、必要だと考えますか。

諸橋：コミュニケーションが上手く取れないとよく言われますが、患者さんには傾聴出来るのでしょうが、色々な職種の方がどういう思いでどういうことを言っているのかということを、もしかすると言葉に出来ないことも聞き取らなければならないのではないかなと思います。言葉に出来ない様々な思いがありますし、医療現場は共通言語があるので専門用語を使うと何となく分

かったような気になるのですが、福祉や他の分野の人達からは医療の専門用語はよく分からないと言われるので、そういった共通言語がないからこそ、多職種とコミュニケーションが取れるような能力も大事だし、医療で使っている言葉をもう少し分かりやすく伝えることが必要かなと。

また、地域は保健医療福祉だけで動いているわけではないので、経済的なことも含めて、生活する場所は色々な企業もありますし、そういう所にも視野を広げつつ他業種の方達との話も出来るような、ある程度の教養や知識、見識等をしっかり持たないといけないと思っています。若い人達には、専門職以外の人達ともお付き合いした方が良いとか、専門職以外の本もしっかり読んだ方が良いとか、そういう話をよくしていました。

市町村毎の地域包括ケアシステムになると、地域の特性を知らないといけないし、一方的にこちらが描いている地域リハビリテーションのイメージを押し付けてはいけないのではないかと思っているので、そういう意味でも地域の特性やその地域が高齢者のことをどういう風に大事にしようとしているか、豊かに過ごせるように考えているのかという部分を把握しないと、先ほどの知識や専門的なことだけではたぶん事足りないのだろうなと。リハセンターのスタッフには、そういったことも把握出来るような人材であって欲しいと思っています。

八重樫：当センターが岩手県の中核施設として役割を果たすためには、機能回復療法部としてどんなことが必要となって来ますか。

諸橋：私がずっと前から療法士の人達に問い掛けていることは、中核施設にどんなスタッフがいたら良いと思うかということです。それは、自分達が中にいるからではなく外からリハセンターを見た時に、中核施設にこんなスタッフがいてくれたら安心だとか、こんなスタッフだったら相談出来るとか、研修に講師で来て欲しい、またはここに研修に来たいと言われるような、中核施設のスタッフとしてのあるべき姿を、一人ひとりがしっかり自覚して仕事をしてもらえると良いかなと思います。

中核施設と普通の病院との違い、中核施設の響き、重さを自覚しなければいけない。自分達ではなく、外から何を期待されているか把握出来るよう、その辺を託して去って行きたいと思います。

八重樫：最後にまとめとして、当センターの後輩、特に若手スタッフに対してエールをお願いします。

諸橋：自分の強みに気付いて、意識してそこを伸ばして行くということと、私が機能回復療法部にずっと言っているのは、相互支援だよということです。全員がその一人ひとりのやりたいことや夢を支援出来たらすごく良い組織になるのだろうなと。逆に今度は自分が何かやりたい時に返って来るので、相互支援出来るような組織を私自身は目指していたし口にもしていました。理想としたら強みを出しつつ一人ひとりがスペシャリストのような、少なくとも中堅になったら、県内で自分の得意分野の講義が出来る位の存在になっていったら周りからも評価されたり、やっぱり中核施設の療法士さん達は違うねとそういう風になって欲しいと思いますし、私自身は若い人達の憧れというかお手本というか、理学療法士としてそういう背中を見せたいなと。だからすごくいろんなことをやって来たのですが、その中で結構よく聞くのは、岩手県だから、地方だからと言われること、私はそれがすごく嫌で。岩手県にいても出来ることはいっぱいあるじゃないかと言って、色々無理もしてきました。全国の仕事もさせてもらってきました。口だけじゃなく岩手県内の療法士に背中を見せて、こんなことが出来るんだよと率先してやれるような、そういうスタッフであって欲しいなと思います。

八重樫：ありがとうございます。若手の方は自分の強みを伸ばすことが大事だということ、それから、相互支援という考え方が大事ということ。また、岩手だからではなく岩手でも、岩手だからこそ出来ることを意識してやっていただきたいという良いお言葉をいただきました。

ぜひ後輩の皆さんは諸橋部長のお言葉を取り入れて、しっかりと当センターのために頑張っていただきたいと思います。

ありがとうございました。

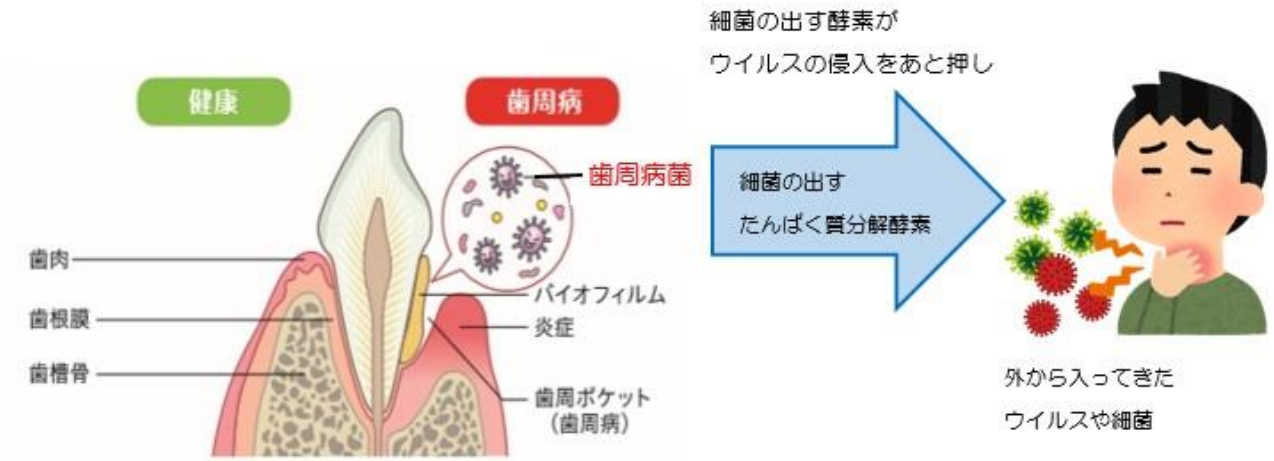
新型コロナウイルス感染予防！お口の健康から

歯科衛生士　阿部　千恵

新型コロナウイルスは口や鼻の粘膜などから感染すると言われています。唾液に含まれる抗体がウイルスや有害な細菌を排除する役割をしますが、お口の中が汚れていると抗体の有害物質を排除する働きが追い付かなくなります。抗体から逃れたウイルスは体内に入りウイルス感染の原因となります。

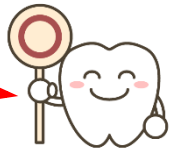
歯磨き不足により歯の表面に付く歯垢（プラーク）や、舌の表面に付く舌苔は細菌の塊です。お口の中の衛生状態が悪化すると細菌増加につながります。

さらに、歯周病菌細菌の出すたんぱく質分解酵素がウイルスの侵入を手助けします。

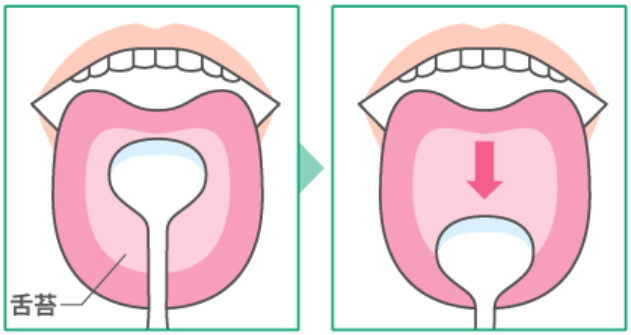


一般社団法人日本歯科医学会連合 HP「新型コロナウイルスについて」より

そこで！毎日のお口のケアがとても大切です



毎日の歯磨き
に加えて



舌の表面につく汚れ（舌苔）の除去が大切です
舌を磨くときは
・柔らかい歯ブラシや舌磨き用ブラシを使用
・軽い力で
・舌の奥から手前に動かします

●新型コロナウイルスの感染予防・重症化予防の為にはお口の健康管理を万全にする事が大切です。
●ご自身でできる毎日のお口のケアをしてお口の健康からウイルスに負けない身体にしましょう。

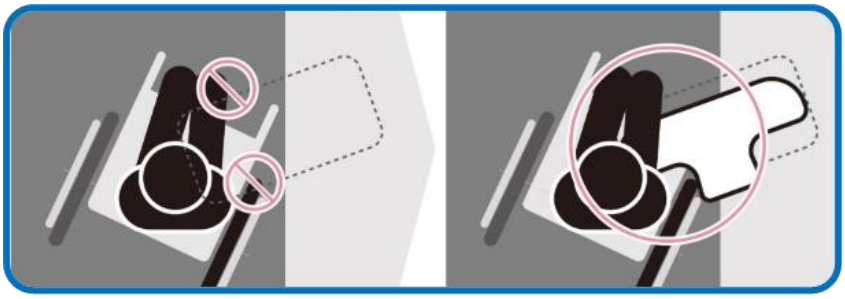
シリーズ
知っ得と便利

福祉用具をご紹介します！

作業療法士　吉田　健

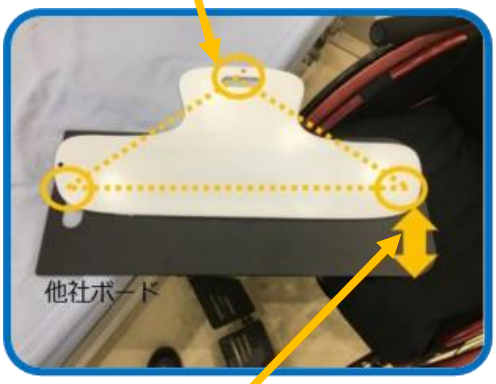
今回は、ベッドなどへの乗り移りの負担を軽減する福祉用具、せき損式スライディングボード**「つばさ」**についてご紹介します。

車いすを使用し、立位が十分にできない方を対象としており、車いすとベッドなどの間にこのボードを挟み、その上をお尻で滑るように乗り移ります。



独自形状（指を掛けて扱いやすい、タイヤと膝裏を避ける）で、従来のボードよりも差し込み時のストレスを軽減します。

３点支持（車いす側１点とベッド側２点）による平面でボードを安定化



他社ボードより細いため、差し込みやすい

Mサイズ　（TBSM2）

- サイズ：600×300×6㎜
- 本体重量：0.7kｇ
- 最大使用者体重：90Kg

●希望価格：18,000円（税抜）
●TAISコード：01975-000001
●JANコード：4573527410011

材質：
ポリエチレン
（PE）

主に**自立用**でのご利用向け

Ｌサイズ　（TBSL2）

- サイズ：720×310×8㎜
- 本体重量：1.0kｇ
- 最大使用者体重：120Kg

●希望価格：22,000円（税抜）
●TAISコード：01975-000002
●JANコード：4573527410028

介護保険
レンタル対象品

主に**介助用**でのご利用向け

開発元：総合せき損センター　　製品取扱店：株式会社 E&I

＜年４回発行＞
発行●いわてリハビリテーションセンター　所在地●〒０２０－０５０３岩手県岩手郡雫石町七ッ森１６番地２４３
ＴＥＬ０１９－６９２－５８００　ＦＡＸ０１９－６９２－５８０７
Ｅメール●info@irc.or.jp　インターネットホームページ●http://www.irc.or.jp